

第3回 SSH オーストラリア海外研修報告

期 間	平成30年3月3日（土）～11日（日）
場 所	オーストラリア ニューサウスウェールズ州コフスハーバー パートナー校 セント・ジョン・ポール カレッジ
参加者	1・2年生徒16名
引 率	本校教諭2名

今回のオーストラリア研修1年生8名、2年生8名の計16名が参加しました。参加者には初めて海外へ行く生徒が多く、緊張と期待、そして高揚が入り混じった研修となりました。事前研修として、前年10月から、個人でテーマを決めて現地での研究発表の準備を始めました。またスカイプで、パートナー校の生徒と自己紹介などをして交流を深めました。この他にもオーストラリアの地理や固有生物の講義を受けたり、英会話や英語でのプレゼンテーションの練習をしたりなど、本当に中身の濃い事前研修になりました。

いよいよ出発の日3月3日（土）、9:35に富山空港を発ち、香港で乗り継いで翌4日（日）9:35オーストラリアに到着、15:40によくコフスハーバー空港に降り立ちました。空港で満面の笑顔で出迎えてくれたホストファミリーに声を掛けられ、生の交流が始まりました。



現地で聞く英語は速く流暢で、驚かされました。しかし友好的で優しいホストファミリーと何とかコミュニケーションをとろうと、身振り手振りも交えながら会話をしました。それぞれ別々の家族とのホームステイの体験は、何もかも初めてのことで、無我夢中でした。

3月5日（月）、パートナー校のセント・ジョン・ポール カレッジに各家庭からバスや車で初登校しました。校舎見学や歓迎会、授業参加などがありました。歓迎会では現地の生徒（スクールバディ）と顔を合わせ、美味しい軽食を片手に会話をし、親睦を深めました。現地の授業はもちろんオールイングリッシュです！オーストラリア特有の発音もあり、なかなかついて

いけません。また、日本とは違って、一人1台パソコンを持ち、それを活用した授業が行われていました。午後のリサーチ発表では、日本で準備してきた研究を現地の生徒相手に一人一人が発表しました。発表後、質問を受けたり、おもしろい内容だったと言われたり、相手が興味を持って聞いてくれているとわかって、本当に嬉しく思いました。



6日（火）はバディとともにバスでドリゴ国立公園に向かい、研修をしました。野外実習の予定があいにく雨となり、午前中は屋内で自然環境やドリゴについての講義を受けました。午後はカッパを着て、説明を受けながら園内を歩きました。亜熱帯雨林であるため、日本の森林とは異なる、珍しい植生を観察することができました。





7日(水)には、午前中サザンクロス大学海洋研究所で、指導員のステファン先生から海洋生物について学んだ後、実際に水槽の生物を観察しました。学校へ戻る前の晴れ間に砂浜に案内してもらいました。雨がちの一週間の中で、ほんのしばらく、まぶしい日差しの中で思い切りビーチを走り回りました。午後は学校の授業が男女に分かれた保健の講義でしたが、内容がたいへん難しく、理解するのに苦しみました。ホームステイ先へ帰宅後、夕方ファミリーに

送ってもらってマトンバード島に出かけました。そしてアボリジニーの子孫であるアンクル・マークの楽しいお話を聞きながら、夜になるとひなに餌をあげるため巣穴に戻ってくる、マトンバードという野鳥を観察しました。強風にあおられながらも辛抱強く待っていると、幸運なことに、ひな鳥の可愛らしい声を聞くことができました。

8日(木)はバディとともにサザンクロス大学のステファン先生に引率され、海の岩場に行って生物の生息状況を調べ、貝やウニの殻などを観察しました。海辺で野生のカンガルーを見つけて大騒ぎしていたところ、研修施設への移動途中、野生のカンガルーがいる公園に連れて行ってもらえました。至近距離でカンガルー



ーを見ることができ、みんな大はしゃぎでした。このように、植物も動物も日本とは全く違うので、研修中は常に新鮮な驚きや発見がありました。午後は大学の研究所で、ステファン先生から講義を受け、バディと一緒に実験をしました。

9日(金)はいよいよ最後の登校日です。最後の授業参加後、滞在中の研修をまとめた発表をさせてもらいました。日本語教室の生徒と折り紙で交流することもできました。放課後には、学校でお別れパー



ティーがありました。バディやホストファミリーが集まってくれて、とても楽しいひと時を過ごしました。そこで私達は一人一人、校長先生から修了書とコアラのぬいぐるみをもらいました。研修中ずっと、現地の方には手厚く、温かい対応をしても



もらいました。多くの生徒が「帰りたくない」と言うほど、オーストラリアに魅了されていました。

そしてオーストラリア滞在最終日、10日(土)朝コフスハーバー空港に集合して、ホストファミリーと涙のお別れをしました。もっとファミリーと時間を過ごしたかった、仲よくなれたバディたちとももう会えない、心をコフスハーバーに残したまシドニー



に向かいました。午後はタロンガ動物園に行ったり、バスで市内観光をしたりしました。タロンガは広大な動物園で、オーストラリア固有の珍しい鳥やコアラ、タスマニアデビルなど、貴重な動物を見ることができました。そしてその夜 22:20 にシドニーを立ち、香港で乗り継ぎ、翌11日(日) 13:45 に羽田到着、19:05 富山空港に降り立ちました。多くの先生方から出迎えを受け、再会を喜び無事に帰国できたことに安堵するとともに、多くの新しい出来事を体験できた充実感でいっぱいになりました。またその一方で、今行ってきたばかりのオーストラリアでの一週間がまるで夢のようで、複雑な思いもしました。

研修を終えた今、私たちは日常の生活に戻り、学習や部活動に忙しい毎日を過ごしています。その合間に、多くの参加者はホストファミリーやバディたちとメールやラインでつながっています。現地での貴重な出会いと経験を大切にして、自分たちの将来に生かして行きたいと思います。また、研修後多く聞かれた感想は、英語が予想以上に聞き取れなかったということです。現地の英語に触れ、ほとんどの生徒がさらに英語力を磨く必要があると感じました。その口惜しさを胸に、全員がこれから普段の英語学習をもっと頑張っていこう、とモチベーションを高めました。そして、もっと英語力に自信をつけて、必ずまたオーストラリアを訪れようと心に誓いました。

